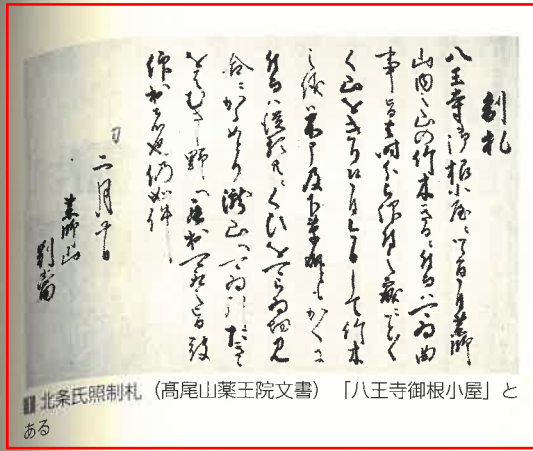


第一節 八王子城とその城下町

一 八王子城築城の歩み

八王子根小屋 氏照の居城だった滝山城も八王子城も巨大な城郭であり、土木工事だけでもかなりの時間をかけ、膨大な労働力を投入したとみられるから、由井領の村々から人足を徴発したと考えられる。しかし、いつ着工したのか、いつできたのかを明確に示す史料が残っていない。八王子城の場合、計画から工事に至るまでを氏照自身が統括したはずであるし、滝山城の場合も何度かにわたって拡張工事や補強・改変工事をしたと考えられるが、それに関わる史料もない。不思議なことである。



北条氏照制札（高尾山薬王院文書）「八王寺御根小屋」とある

滝山城が氏照の居城であることを示す確実な史料の初見は、第五章第四節で述べたように、永禄十年（一五六七）九月十七日の朱印状である（編年57）。これ以前に滝山城ができていたことになるが、その時期がわからない。その後、天正六年（一五七八）十月二十六日に並木弥六郎に対し、小山城の在番のために来る七日に滝山を立出（しゅうたう）するよう命じている（編年58）。この時点で滝山城を居城としていたことになる。他方、それより八か月ほど前の同六年二月十日に高尾山の薬師山別当宛てに出した制札に「八王寺御根小屋」という文言がみえる（編年59 写真1）。城郭に

関わる「八王子」の確実な初見である。この制札では「八王寺御根小屋に候の間」、薬師山より内の山の竹木を伐ってはならないと以前に仰せつけたのに、ことごとく竹木を伐ってしまった、今後は竹木はもちろん下草であっても刈り取つたなら、首を切る、見付け次第に身柄を押さえて滝山へ連れてくるようにと命じている。この時点で滝山城が氏照の居城であることはやはり動かない。

では、「八王寺御根小屋」とは何であろうか。「根小屋」は「根古屋」とも書き、城下の家臣居住区を指すのが一般的である。八王子に何らかの城郭があり、その麓に根小屋があったとみられる。氏照が設定したものとみてよい。根小屋があるので竹木を伐ってはならないと命じたのに伐つたと責めている時間の経過からみると、根小屋の設定は少なくとも同年の正月以前にさかのぼるよう思われる。後の八王子城は高尾山の北方、小仏峠を通る甲州街道を挟んで高尾山と相對するところにある。伐採を禁じられたところは高尾山の北側斜面であろうか。



大悲願寺

『シゴジと これに関連して思いおこされるのが、あきる野市大悲願寺(写真2) シゴジ城 に所蔵されている「大悲願寺過去霊簿」にみえる次の記述である。天正六年のこととして、「神護地城筑始」とあり、「当国油井領神護地山において、三月比より新城を筑始む、横山領の古城を移さんとする沙汰なり」と記している（編年59）。この天正六年三月頃という記述は八王子根小屋が文書に登場した時期に非常に近く、記述はある程度信頼できるもののように思われる。『新編武蔵』では、「シゴジ」に「神宮寺」「神護寺」「慈根寺」の文字を当てている。戦国時代に八王子城の東側に城下町がつくられたが、そのあたりは江戸時